

Northern Aspects #03

中江紀洋 時の彼方へ

The Sculpture of Norihiro Nakae: Beyond Time

Northern Aspects は、歴史や分野、表現傾向やモチーフなど様々な側面から北海道の美術を検証し、紹介しようとする展覧会シリーズです。第3回の作家として、釧路で活動を続ける彫刻家、中江紀洋をご紹介します。

中江紀洋は彫刻家・米坂ヒデノリの指導を受けた後、上京して武蔵野美術大学で彫刻を学んでいます。自由美術展や全道展、釧路美術協会展を舞台に活動し、また個展や「北海道立体表現展」他のグループ展への参加など、旺盛な制作活動は現在まで40年におよびます。

その作風は、1970年代後半から有機的な形態をもった木彫の表現にはじまり、90年代にはいつて鉄や石、廃材などさまざまな素材との出会いによって、大きく空間をとりこんだ構成的なインスタレーションへと展開していきます。制作を現在まで貫くテーマは「時」であり、過去の人々との交信を想起させる初期からの表現は、近

年にたってより大きな時間の概念をとらえるなかで、観る者へのメッセージ性を強くみせています。

本展では、これまでの制作の集大成ともいえる大型インスタレーションの新作を、時間を表現する原点となった最初期の彫刻作品とともにご紹介いたします。釧路という地の歴史と風土に起って、開拓時代の無名の人々の声を訊き、彼らのメッセージを表現の中核にしてきた中江のまなざしは、いよいよ未来へと向けられます。それは北海道という地域をはるかに超えて、地球規模の視野をもった、人類の行く末への警鐘とも言える表現となっています。

今や釧路という一地域から世界を望む中江芸術に触れることは、北海道という土地と、そこから生まれる表現とのかかわりをめぐる創造世界の旅へと、私たちを導いてくれることでしょう。

No. 作品名	制作年	材質・技法	所蔵
1 地殻交信機	1976(昭和51)	木(サクラ、カツラ)	作家蔵
2 宿世からの追伸	1979(昭和54)	木(サクラ、カツラ)	北海道立近代美術館蔵
3 核磁気共鳴画像装置	2010(平成22)	木(スプリース材)、石膏、ジェッツ	作家蔵
4 回帰(終章)	2010(平成22)	木(ナラ)、ステンレススチール、オーク材(ワイン樽片)、ジェッツ	作家蔵
5 北斗の彼方へ(脱出)	2010(平成22)	木(スプリース材)、石膏、ステンレススチール、ジェッツ	作家蔵
6 核磁気共鳴画像装置	2010(平成22)	鉛筆、フェルトペン、ボールペン、アクリル絵具・紙	作家蔵
7 回帰(終章)	2010(平成22)	鉛筆、フェルトペン、ボールペン、アクリル絵具・紙	作家蔵
8 北斗の彼方へ(脱出)	2010(平成22)	鉛筆、フェルトペン、ボールペン、アクリル絵具・紙	作家蔵
9 釧路川	2010(平成22)	鉛筆、フェルトペン、ボールペン、アクリル絵具・紙	作家蔵